

豊田工業高等専門学校 平成24年度 自己点検評価書

	平成24年度年度計画(4月提出)の概要	平成24年度実績報告(自己点検)
<p>【1. 教育に関する事項】 (1)入学者の確保(学生募集活動、女子学生確保、入試方法の改善等)</p>	<p>①学生募集活動 学校説明会、オープンキャンパス、全職員による学校訪問、学生の卒業中学校訪問、中学校進路指導教員との情報交換会の企画、中学校長会でのPRを行うことに加え、校長の中学校個別訪問による情報提供・PRを実施する。 業者による私学対象の高校説明会などへも高専として参加を計画し、より多くの中学生に情報提供を行う。潜在的な入学志願者である小学生やその保護者をも対象として、高専への理解と関心を深める施策を実施する。</p> <p>②女子学生確保 女性教員の採用を推進する、女子更衣室・女子トイレの増設や女子寮の整備を行う。</p> <p>③入試方法の改善 合否判定基準の見直しを行い、学生募集要項及びウェブに掲載する。引き続き、入試方法の改善を行い、優秀な志願者確保に努める。</p>	<p>①学生募集活動 ・豊田市小中学校長会において、本校の学校説明を行い広報を行った。 ・昨年に引き続き、愛知県及び隣接県の生徒、保護者及び中学校教諭を対象に「学校説明会」を延べ15会場で開催し、本校の特色、入試情報及び「オープンキャンパス」の案内を行った。 ・入学案内、PRリーフレット、オープンキャンパスチラシ及び学科の紹介誌等を作成した。特にPRリーフレットは県内全中学校及び隣接県の一部中学校の3年生全員に送付した。 ・県内全中学校(78, 280部)及び隣接県の一部中学校へ複数部のオープンキャンパスチラシ(6, 450部)を配付した。 ・教員による県内全中学校414校のうち377校及び隣接の岐阜県静岡県の一部中学校(岐阜県: 25校, 静岡県10校)への学校説明及び入試説明を行った。 ・東三河地区の中学校教諭との情報交換会を実施し、意見等を収集し、連携を図った。 ・中学校主催の進学説明会において、本校の説明を行った。 ・第1学年の一部学生が、母校の中学校に訪問し、本校の情報提供を行った。 ・中学生の上級学校訪問活動を受け入れ、本校の説明を行った。 ・私学対象の高校説明会に参加し、入学志願者及び保護者に対して説明を行った。また、愛知県私塾協同組合主催の説明会に参加し、私塾の講師に対して本校の説明を行った。 ・各種校外行事にロボット等のデモンストレーションを実施し、行事参加者へ広報活動を行った。 ・今年度の学校説明会参加者数(808名)及びオープンキャンパス参加者数(837名)は昨年を上回った。また、本校ウェブページの入試情報、教育活動状況等について随時更新し、最新情報を広く公開した。</p> <p>②女子学生確保 ・女性教員の採用を推進するため、教員公募要項(7件)に「積極的な女性採用」について明記した。 ・校舎(機械工学棟, 一般教室棟)改修事業により、各階女子トイレの設置を決定した。 ・学生混合寄宿舎新築工事を実施し、寮室(女子18室)、補食室(女子2室)、シャワー室(女子3室)、各階の洗面、洗濯、便所を含めた3階建て寄宿舎を整備した。 ・校舎棟の女子更衣室出入口ドアに暗証番号式の鍵を付ける等、セキュリティに配慮した。</p> <p>③入試方法の改善 合否判定基準の見直しを行い、その情報を学生募集要項及びウェブページに掲載した。入試方法の改善については、更に優秀な志願者を確保するため、引き続き検討を続ける。</p>
<p>(2)教育課程の編成(学科及び専攻科の構成・改組等、専攻科の充実等)</p>	<p>①学科及び専攻科の構成・改組等 当面、変更することをせず、モデルコアカリキュラムによる修正を含め、引き続き教育改善推進室、キャリア教育支援室等を中心に社会情勢の変化等に対応した学科構成や専攻科の在り方等を不断に検討する。</p> <p>②教育課程変更後の自己点検評価 教育改善推進室が実施した授業改善に関するアンケート等の資料を基に、教務委員会が自己点検評価を行い次年度以降に役立てる。</p> <p>③専攻科の充実 科学技術戦略推進費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを活用して企業技術者と交流できる講座等に専攻科生を積極的に参加させるとともに、社会が求める先端技術に対応できる技術者を輩出する。</p>	<p>①学科及び専攻科の構成・改組等 教育課程の改善について、教育改善推進室、キャリア教育支援室等が中心となって検討を重ねている。モデルコアカリキュラムへの対応は、教務委員会を中心に学習内容の到達目標に対して到達度状況を各学科科目ごとに精査し、どの授業科目で適合するかについて点検を行った。</p> <p>②教育課程変更後の自己点検評価 前期及び後期に教育改善推進室が実施した授業改善に関するアンケート等の資料を基に、自己点検評価を行った。</p> <p>③専攻科の充実 科学技術戦略推進費(地域再生人材創出拠点の形成)「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを活用して企業技術者と交流できる講座に積極的に参加させた。受講生にとって、技術者となるための素養と創造力を高める新たな目覚めとなった。 専攻科生 電子機械工学専攻27名、情報科学専攻16名 計43名</p>

豊田工業高等専門学校 平成24年度 自己点検評価書

	平成24年度年度計画(4月提出)の概要	平成24年度実績報告(自己点検)
<p>(3)優れた教員の確保(採用方針、女性教員採用、他機関との交流、FD等)</p>	<p>①採用方針(女性教員採用) 科学技術振興事業団の研究者人材ベースに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に継続して教員公募に関する周知を行い公募制を積極的に導入し、全国から有能な人材の確保に努める。また、能力等が同等なら積極的に女性を採用する方針である。</p> <p>②他機関との交流 高専・両技科大との教員交流制度を積極的に活用する。 22年度派遣1名 受入2名 23年度派遣0名 受入1名 24年度派遣1名 受入1名</p> <p>③FD ・教育改善推進室において本校の特徴を踏まえた教材選択や教育方法の開発について検討するとともに、教授法について情報交換を行う。 ・FDセミナー等を開催し、さらなる教育の質の向上を図る。</p> <p>④女性教職員の環境整備(就業環境、女子トイレ、更衣室等) 施設整備計画委員会において、施設・設備の基本計画、効果的・効率的の使用などを基に、女性用化粧室、更衣室などの設置について検討する。</p>	<p>①採用方針(女性教員採用) 4学科で教員公募(7件)を行い、公募要項に能力等が同等な場合は、積極的に女性を採用する旨を明記した。(H25.4.1採用について、女性1名採用(G科))</p> <p>②他機関との交流 高専・技科大との教員交流制度を活用した。 24年度派遣1名(豊橋技科大)、受入1名(岐阜高専)(各1年間)</p> <p>③FD 平成25年1月9日にセミナーを実施した。グループ毎にミニTPワークでの複数のテーマについて、深く議論し、テーマ毎に意見を取りまとめ発表し、後日結果を公開した。また、小セミナーと称して、自由参加形式のセミナーを2回実施した。同セミナーは、10名程度の少人数で実施され、意見が活発に出され参加者からも好評を得た。また、公開授業期間を2週間延長し、4週間とし、全教員80名に2科目以上の聴講を目標とした結果、概ねその目標を達成した。(全教員の99%が2科目を聴講)</p> <p>④女性教職員の環境整備(就業環境、女子トイレ、更衣室等) 校舎(機械工学棟、一般教室棟)改修事業により、各階女子トイレの設置を決定した。</p>
<p>(4)教育の質の向上・改善(自己点検評価、JABEE認定、学校の枠を越えた学生の交流活動、インターンシップの実施、共同教育、企業人材の活用等)</p>	<p>①自己点検評価 平成26年度に機関別認証評価を受けるための諸準備を進める。</p> <p>②JABEE認定 継続認定を受けたJABEEプログラムに基づき、教育の質の向上に努めるとともに、課題等について外部評価対応委員会等で対応していく。</p> <p>③学校の枠を越えた学生の交流活動 学生にボランティア活動や自然体験活動等の様々な体験活動へ積極的に参加できる環境を整え、引き続き、近隣大学の学生を含めた学生間交流等を推進する。</p> <p>④インターンシップの実施 第4学年で実施されている「校外実習」をインターンシップの一環と位置づけ、より多くの学生が夏季休業期間中に就業体験をすることができるよう昨年に引き続き実施方法の改善に努める。専攻科については、インターンシップの参加率を高めるよう引き続き努力する。</p> <p>⑤共同教育 両技科大提供する、eラーニング科目を積極的に取り入れ、引き続き学生へ提供する。 専攻科では、科学技術戦略推進費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムにおいて、地元豊田市、商工会議所と連携して企業技術者とのCOOP教育などを含め、教育方法の充実、方策について検討を進める。</p> <p>⑥企業人材の活用 科学技術戦略推進費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」のカリキュラムの講師として、現役の企業技術者に一部の授業を担当していただく。</p>	<p>①自己点検評価 平成26年度に受審予定の機関別認証評価に係る諸準備のため、平成24年12月及び平成25年2月に外部評価対応委員会を開催し、受審スケジュール及び自己評価書の作成担当者等を決定した。</p> <p>②JABEE認定 大学レベルの教育機関として社会的評価を得るため専門教育プログラムを実施している継続認定中の5学科について、平成27年度に同時に新基準で受審することを決定した。 また、外部評価対応委員会において、学生の達成度評価を把握するため、本校の教育目標に対してのアンケートを実施した。</p> <p>③学校の枠を越えた学生の交流活動 学生会及び寮生会の高専間交流行事を実施又は参加した。また、東海地区留学生交流会に参加した。</p> <p>④インターンシップの実施 本科4年生のうち167名が延べ185の会社又は市役所等で、1週間から2週間程度のインターンシップに参加した。しかし、長引く不況等から受入企業側が実習期間を短縮したり、実施を見送る企業も増加したりして、学生が希望する会社への就業体験が困難な状況となってきた。 また、専攻科においては、長期インターンシップ(1か月)を推進しているが、受入企業が少ないことから、2週間未満のインターンシップにも積極的に参加するよう就業体験を推進し、その結果、延べ10名程度が参加した。</p> <p>⑤共同教育 両技科大を始めとし、高専も含め多数の学校との、eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定により提供されるeラーニング科目を積極的に取り入れ、指導した結果、受講者が増加した。(平成24年度:124名)引き続き学生へ提供する予定である。 専攻科では、科学技術戦略推進費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムにおいて、地元豊田市、商工会議所と連携して企業技術者とのCOOP教育などを含め、教育方法の充実、方策について検討を進めた。また、平成24年度テマセク・ポリテクニク技術英語研修、豊橋技術科学大学大学生国際交流プログラム、ISTS 2012、日台iGOシンポジウム2012、平成24年度国際原子力人材育成事業等、各種シンポジウム・研修会等に積極的に参加した。</p> <p>⑥企業人材の活用 科学技術戦略推進費(地域再生人材創出拠点の形成)「ものづくり一気通観エンジニアの養成」の前期カリキュラムにおいて、現役の企業技術者が一部の授業を担当した。このことは、受講者にとって現場での最新技術や情報が得られる有意義な講義となった。 (株)デンソー及びデンソー技研センター 計6名</p>

豊田工業高等専門学校 平成24年度 自己点検評価書

	平成24年度年度計画(4月提出)の概要	平成24年度実績報告(自己点検)
<p>(5)学生支援・生活支援(メンタルヘルス、就学支援・生活支援、キャリア教育、図書館及び寄宿舎等)</p>	<p>①メンタルヘルス 機構等が開催する教職員を対象としたメンタルヘルス講習会に積極的に参加するとともに、本校においても学生・教職員を対象とした講習会を開催する。</p> <p>②就学支援・生活支援 学生や保護者に各種奨学金制度の情報を積極的に周知する。</p> <p>③キャリア教育 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を整備する。 キャリア教育支援室を中心に、学習意欲の向上・学生の進路選択・決定のための支援活動を組織的に行い、1年生から学年進行に応じた必要な行事、講演及び体験を計画的に実施する。その中で、同窓会との連携による模擬就職面接試験など実質的な就職活動の支援を行う。</p> <p>④図書館及び寄宿舎 ・教育研究に資する図書を厳選して整備するとともに、視聴覚機器、マルチメディア機器を引き続き整備し、図書館の利用を促進する。 ・学寮等学生支援・生活支援施設の利用を促進するとともに、学習意欲を向上させる学寮環境改善のため、居室の整備、建物の新営、空調機の導入等を行う。 ・図書館等既存施設の現況、利用状況等の実態を分析し、具体的な施設整備計画を策定する。 ・学生自身が生活環境の改善を図りたいと計画するものに対しても、支援を行っていく。</p>	<p>①メンタルヘルス 10月には、学生相談室の体制を見直し、室員として各学科の教員を配置し、学生の諸問題に係る相談・助言・援助等の充実及び強化を図った。 また、寄宿舎においては高学年生が新入生を指導、援助又は身近な相談者となり寄宿舎の運営が学生により実施することができるような内容とした以下の合宿研修及び寮指導学生研修会を企画・実施したことにより、学生のメンタル面の助けも含み、高専生としての基本的な心構え、知識、体力及び生活習慣を身に付けさせることができています。</p> <p>・第1学年合宿研修実施(H24.6.10～11) (第2学年は2月に実施、第3学年は3月に実施した。)</p> <p>・春季寮指導学生研修会(H24.3.31～4.2) ・秋季寮指導学生研修会(H24.9.27～29)</p> <p>また、教職員を対象とした産業医による健康管理講習会を実施した。</p> <p>②就学支援・生活支援 各種奨学金等の情報を学生に周知し、必要に応じ説明会を実施し、随時学生からの相談等に対応している。</p> <p>③キャリア教育 キャリア教育支援室を中心に、1年生から5年生までを一貫したプログラムでキャリア形成に必要な合宿研修から、学年に応じた情報提供、実地指導を実施した。(全22プログラム)プログラムの中には、同窓会との連携による模擬就職試験など実質的な就職指導を行った。また、進路決定の支援としてキャリアアドバイザーによる面接指導を実施した。</p> <p>④図書館及び寄宿舎 図書館では、各学科からの要望を取り入れ、専門図書の充実を図った。また、館内のDVDプレーヤー(6台)、ポータブルCDプレーヤー(10台)及び利用者向け検索用パソコン(4台)のうち、今年度は、検索用パソコンを新規に入れ替え、利用しやすい環境づくりに努めた。 寄宿舎に新棟を設置(平成25年3月竣工、定員80名)し、大幅な入寮待ちを解消することができた。更に環境整備で全居室に冷暖房機の導入及びロッカーの更新(平成25年3月完了)を実施した。</p>

豊田工業高等専門学校 平成24年度 自己点検評価書

	平成24年度年度計画(4月提出)の概要	平成24年度実績報告(自己点検)
<p>(6)教育環境の整備・活用 (施設マネジメント、教育環境充実、環境配慮、寄宿舎整備 等)</p>	<p>①施設マネジメント・整備計画 施設整備計画委員会・同委員会施設整備専門部会において、校舎・実験施設等の教育施設の老朽度・狭隘化やバリアフリーへの対応状況、実験器材・棚等転倒防止策等についての点検評価作業などの検討を行い、年次計画を立てて計画的に教育環境を改善する。</p> <p>②教育環境の充実 施設整備計画委員会において、点検評価体制、施設・設備の基本計画、効果的・効率的な使用などの検討を進め、各種委員会において、教育に必要な設備、図書館、情報ネットワーク等の整備等の検討を引き続き進める。</p> <p>③環境配慮 温暖化効果ガスの削減を図るとともに省エネ対策を構築する。 ボイラーの廃止によりCO2削減に努める。</p> <p>④寄宿舎整備 ・空調機を設置する。 ・寄宿舎の新営を行う。 ・井水を飲料水用に転用できる設備を導入し、経費節減と資源有効活用を行う。</p>	<p>①施設マネジメント・整備計画 ・校舎改修整備を計画的に進めており、今後は、最終整備となる一般管理棟改修事業を整備に向けて具体的な検討を行った。 ・年次計画どおり、学生混合寄宿舎新営工事を実施し、寮室(女子18室、男子62室 計80室)、補食室(女子2室、男子3室)、シャワー室(女子3室、男子6室)、各階の洗面、洗濯、便所を含めた3階建て寄宿舎を整備した。 ・既設寄宿舎の環境改善を図る検討を開始した。</p> <p>②教育環境の充実 次年度から施設整備計画委員会、環境管理委員会を統合し、施設環境整備委員会として、今後の整備検討課題を整理して取り組むこととしている。</p> <p>③環境配慮 新寄宿舎の整備を行い、屋上、外壁、窓の断熱性を高め、高効率型照明、節水型便器、洗面を採用した。 また、暖房用ボイラーの廃止を実施した。</p> <p>④寄宿舎整備 ・空調用基幹整備を実施し、既設寄宿舎及び新寄宿舎の全居室に空調機を設置した。 ・学生混合寄宿舎新営工事を実施し、寮室(女子18室、男子62室 計80室)、補食室(女子2室、男子3室)、シャワー室(女子3室、男子6室)、各階の洗面、洗濯、便所を含めた3階建て寄宿舎を整備した。 また、総合評価落札方式の実施により、施工上配慮すべき事項としてコンクリートの品質管理のために降雨による骨材の表面水率の変動を防ぎ、2箇所ある排出口から交互に排出することができるサイロ内での骨材粒度の偏りを防ぐ提案を採用した。 ・井水を飲料水用に転用できる井水浄化サービス事業を導入した。(平成25年4月より運用を開始。)</p>
<p>【2. 研究に関する事項(外部資金獲得、産学連携、知財管理 等)】</p>	<p>①外部資金獲得 ・平成21年度に採択された科学技術振興調整費(地域再生人材創出拠点の形成)「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムは4年目に入り、産学官連携による学生・技術者の共同育成を通じて、ものづくりを「一気通観」で見通せる的確な方策を実践できる創造力豊かなリーダー的技術者を養成していくため3期目の受講生を受け入れる。 ・科学研究費補助金は、毎年、採択件数が上位となっており、原則として全教員申請とし、引き続き獲得に努める。 ・受託研究・共同研究・奨学寄付金については、今後も積極的に獲得に努める。 ・3年間実施した、質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)2件、「多読・多聴による英語教育改善の全学展開～苦手意識を早期に克服し、自律学習を継続させ、英語運用能力を顕著に向上させる新しい英語教育の展開・伸張～」と「ボランティア活動を活用した実践教育～防災教育・環境・町づくりボランティア～」を自立化して、確実な成果をあげる。 ・教育・研究関連の各種事業募集に積極的に応募し、外部資金獲得を目指す。</p> <p>②産学連携・知財管理 ・テクノコンプレックスを中核機関とし、高度技術教育、教員研究及び地域の企業との共同研究を推進する。 ・共同研究や受託研究の受入れを促進し、研究成果の活用をはかるため、教職員等を対象とした知的財産のための講演会・講習会を開催する。また、特許出願を支援する。</p>	<p>①外部資金獲得 ・平成21年度に採択された科学技術戦略推進費(地域再生人材創出拠点の形成)「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムは4年目に入り、産学官連携による学生・技術者の共同育成を通じて、ものづくりを「一気通観」で見通せる的確な方策を実践できる創造力豊かなリーダー的技術者を養成していくため、3期目の受講生39名を受け入れた。また、プログラムの自立化に向けて順調に進んだ。 ・外部講師を名古屋大学から招へいし、科学研究費補助金に関する説明会を9月21日(金)に開催した。教員36名、その他12名計48名が参加した。その結果、47名(継続者を除く)が申請し、引き続き資金獲得に努める。 ・受託研究・共同研究・奨学寄付金については、今後も情報提供するなど積極的に資金獲得に努めた。 受託 7件 共同研究 15件 奨学寄付金 14件 ・多読・多聴による英語教育改善の全学展開では、3年間の実績をもとに、継続して実施した。専攻科1年生(電気・電子システム工学科卒業生)のTOEIC(年間自己ベスト)平均点が500点を越え、確実な成果をあげた。 ・ボランティア活動を活用した実践教育では、豊田市学生による町づくりの会に、継続的に本校からボランティアとして多くの学生が参加しており、さらに、豊田市中心市街地活性化を目的とした「パブリカ」にも多くの学生が現在も参加している。また、一昨年度から本校に防災・減災ボランティア団体「TNCT義勇隊」を結成し、東日本大震災への募金活動等の活動を行ってきている。 応募件数 16件 採択 3件</p> <p>②産学連携・知財管理 ・テクノコンプレックスを中核機関とし、高度技術教育、教員研究及び地域の企業との共同研究を推進した。共同研究 15件。 ・今年度は、教職員等を対象とした知的財産のための講演会・講習会を開催することはできなかったが、平成25年度8月に開催予定の全国高専テクノフォーラムにおいて、知的財産に関連する講演会開催の計画・検討を開始した。 特許登録 1件</p>

豊田工業高等専門学校 平成24年度 自己点検評価書

	平成24年度年度計画(4月提出)の概要	平成24年度実績報告(自己点検)
<p>【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項(地域技術者育成への貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受入体制の強化、外国人留学生に対する研修旅行の実施等)】</p>	<p>①地域技術者育成への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術戦略推進費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムに基づき、豊田市と連携し地域の技術者育成に貢献する。 ・豊田市ものづくり人材育成講座「製造技術者育成プログラム」に会場の提供及び講師の派遣を行う。 ・豊田市、豊田商工会議所と本校との三者により平成24年4月に締結した「とよたイノベーションセンター」の設置と運営に関する協定をさらに実質的なものとして進め、同センターを開所する。 <p>②理科教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのネットワークを構築し、従来の中学生や一般に加えて小学生とその保護者を対象に加え、公開講座及び出前授業を実施し、また、地域企画事業へ積極的に参加する。 ・地域の小学生も含めて、ものづくりを体験させ、科学への理解を増進を図るため、理科工作教室を開催する。 <p>③卒業生ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 同窓会組織等と連携し、卒業生の動向を把握し、卒業生による在校生のための講演会、講習会及び交流会を開催するなど、卒業生とのネットワークの活用を引き続き計画する。 <p>④国際交流協定の締結</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流委員会において、協定の締結について検討を進める。 <p>⑤学生の海外派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識・経験を積むため、多くの学生が海外留学しており、これを積極的にサポートする。 <p>⑥留学生の受入体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 寄宿舎新館において、留学生スペースも計画し、整備する予定である。 <p>⑦外国人留学生に対する研修旅行の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生に日本の歴史・文化に触れさせる研修旅行(日帰り)を年1回実施するとともに、東海地区高専共同で開催される研修会に積極的に参加させる。 <p>⑧地域共同テクノセンターの整備計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状を維持しつつ、豊田市及び豊田商工会議所との三者による「とよたイノベーションセンター」構想の進捗状況に応じ、整備計画を検討する。 	<p>①地域技術者育成への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術戦略推進費(地域再生人材創出拠点の形成)「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムに基づき、豊田市と連携し地域の技術者育成に貢献した。 ・豊田市ものづくり人材育成講座「製造技術者育成プログラム」における会場の提供及び講師の派遣を行った。 ・豊田市、豊田商工会議所と本校との三者により平成24年4月に締結した「とよたイノベーションセンター」の設置と運営に関する協定をさらに実質的なものとして進め、同センターを6月に開所した。 <p>技術相談・経営相談件数(2月末日現在) 36社 103件 新技術・新産業創出支援に係るセミナー等受講者 330人</p> <p>②理科教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのネットワークを構築し、従来の中学生や一般に加えて小学生とその保護者を対象に加え、公開講座及び出前授業を実施し、また、地域企画事業へ積極的に参加した。 ・地域の小学生も含めて、ものづくりを体験させ、科学への理解を増進を図るため、「とよた高専おもしろ科学教室」等の理科工作教室を開催した。 <p>公開講座11件 出前事業10件 地域貢献19件 理科工作教室2件</p> <p>③卒業生ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年11月に同窓会組織と連携し、第3・4学年を対象とした卒業生による在校生のための講演会を開催した。また、平成25年3月に、同窓会主催による新第5学年を対象とした模擬面接講座を実施した。 <p>④国際交流協定の締結</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流委員会において、協定の締結について情報収集し、鋭意検討している。 <p>⑤学生の海外派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> AFS,YFUを通じた学生の長期(10ヶ月程度)海外派遣を積極的に推進しており、28名が海外留学した。 <p>⑥留学生の受入体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 寄宿舎の新棟建設に伴い、安定した住居の提供(留学生用5部屋、留学生チューター用1部屋を確保)ができるようになり、自炊設備、シャワー室の環境整備を実施した。 <p>⑦外国人留学生に対する研修旅行の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生の異文化交流事業として京都・嵐山を訪れ歴史的な名所等の見学を実施した。 <p>⑧地域共同テクノセンターの整備計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状を維持しつつ、豊田市及び豊田商工会議所との三者による「とよたイノベーションセンター」構想の進捗状況に応じ、整備計画を検討した。
<p>【4. 管理運営に関する事項(危機管理体制、教職員の服務監督・健康管理、職員の研修、人事交流、等)】</p>	<p>①危機管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校における危機管理を総合的かつ計画的に推進するため、危機管理室を設置し、その具体的運営について検討を進めている。 ・総合的な危機管理マニュアルの作成に向けて情報収集を行い、作成する。 <p>②教職員の服務監督・健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 総務課事務室にある出勤簿へ出勤後押印させ、休暇簿についてもその場で記入する方法により、出勤・休暇状況の把握を徹底する。病休・休職等の対応については、すみやかに該当学科主任から人事労務係へ連絡するとともに、校長へ相談し授業の代替等を検討する。 <p>③職員の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員は、教員教育研修会への参加を勧め、事務職員や技術職員の能力の向上を目指した文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会には、積極的に参加させる。また、引き続き新任職員に対し年度早々に研修を行い、職員の必要に応じて業務に関係する各種研修を行う。 <p>④人事交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用した交流を積極的に行う。職員は、高専間、近隣の機関(名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、愛知教育大学、岡崎統合事務センター)と積極的に交流を進める。 	<p>①危機管理体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な危機管理マニュアルの作成に向けて情報収集を行った。また、勤務時間外における災害発生時等の参集体制について検討し、緊急対策への助力を緊急支援員に依頼することとなった。 <p>②教職員の服務監督・健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 服務(勤務時間)管理は、計画通りに実施した。健康管理についても、健康診断(定期・特別、人間ドック受診者には健康診断結果の提出を求める。)を実施した。 <p>③職員の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年の研修参加に加え、新任教員研修では、「AEDの取扱いのDVD視聴」を実施し、また、職員(事務・技術)を対象には、企業会計研修(簿記)及び機構本部からの語学研修制度に基づき、職員(事務・技術)を対象とした「英会話リスニング教材活用研修」により希望者にCDの貸出を行った。(他機関主催研修参加等人数(延べ):教員11名、事務11名、技術7名) <p>④人事交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員は、高専・技科大との教員交流制度を活用した。24年度派遣1名(豊橋技科大)、受入1名(岐阜高専)(各1年間) 事務職員は、名古屋大学(受入(7名)及び自然科学研究機構(岡崎統合事務センター)(受入1名、派遣1名)との人事交流を行った。

豊田工業高等専門学校 平成24年度 自己点検評価書

	平成24年度年度計画(4月提出)の概要	平成24年度実績報告(自己点検)
<p>【5. 業務運営の効率化に関する事項(一般管理費の縮減、随意契約の見直し、施設マネジメント、整備計画等)】</p>	<p>①一般管理費の縮減 ・光熱水料の一層の縮減を検討する。 ・寄宿舎地区の井水を飲料化することにより、寄宿舎共同費の経費削減を行う。</p> <p>②随意契約の見直し ・照明機器の省エネタイプの導入や寄宿舎の受電統合整備を行う。 平成21年度に機構本部から示された「一者応札・応募に係る改善方策について」に基づき、契約手続を推進する。</p> <p>③施設マネジメント、整備計画 施設整備計画委員会・同委員会施設整備専門部会において、校舎・実験施設等の教育施設の老朽度・狭隘化やバリアフリーへの対応状況、実験器材・棚等転倒防止策等についての点検評価作業などの検討を行い、年次計画を立てて教育環境を改善する。</p> <p>④職員の勤務 平成22年度から全職員について労働時間の有効活用を図るため、変形労働制を導入した。今後は、各職員の時間外労働時間を把握し、さらなる個人毎の労働時間有効活用を促進する。</p>	<p>①一般管理費の縮減 環境指針の定めによる、空調機等の管理及び日々の水道使用量の監視による早期の漏水対応などにより光熱水料の縮減を図った。 また、井水を飲料水用に転用できる設備を導入した。</p> <p>②随意契約の見直し 入札にあたり、常に、複数の業者が応札できるような仕様作成について検討を行った。 また、入札公告については、より多くの応札参加が得られるよう留意し、本校ウェブページで公告期間を十分確保の上、周知した。 昨年度、1者応札となった案件については、辞退理由を確認し、仕様書・公告の際に改善を図った。 今年度、1者応札となった案件についても、辞退理由を確認し、今後の入札の際に改善を図る予定である。</p> <p>③施設マネジメント、整備計画 校舎改修整備を計画的に進めており、今後は、最終整備となる一般管理棟改修事業を整備する予定である。 今年度は寄宿舎の整備を行ったが、今後は、既設寄宿舎の環境改善を図る予定である。</p> <p>④職員の勤務 平成22年度から全職員について労働時間の有効活用を図るため、変形労働制を導入した結果、今年度で3年目となり、導入後の時間外労働の削減について、導入前よりは、ある程度の効果が確認できた。</p> <p>・超過勤務手当額(千円):H21年度 15,801 [導入後]→H24年度 10,529</p> <p>・超過勤務時間(時間):H21年度 5,606 [導入後]→H24年度 4,085</p>
<p>【6. その他】</p>	<p>・創立50周年記念事業について、創立50周年記念事業実行委員会及び各専門部会を組織し、引き続き企画等詳細を計画する。</p>	<p>・創立50周年記念事業 創立50周年記念事業実行委員会を開催し、記念式典等の開催日、実施事業等を決定した。 ・募金趣意書を教職員、学生保護者及び企業等に送付し、募金の受付を開始した。 ・記念誌の原稿を執筆者から回収し、印刷業者に入稿した。 ・本校のロゴマークを制定するため、ロゴデザインコンテストを実施し、デザインの募集を開始した。</p>